

# 『生ごみたい肥の利用方法』

ごみの減量に伴い、生ごみのたい肥を利用してみたいという方に、「生ごみ処理容器等でできたたい肥」の一般的な利用方法をご紹介します。

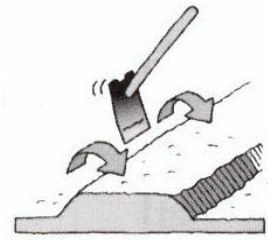
※『生ごみたい肥』だけでは、植物は育ちません。  
『市販の肥料等』と併用してご利用下さい。

## <利用方法>

ごみたい肥も間違った使い方をすると、せっかくの植物もだめになってしまいます。ここでは、生ごみたい肥の一般的な利用方法をご紹介します。

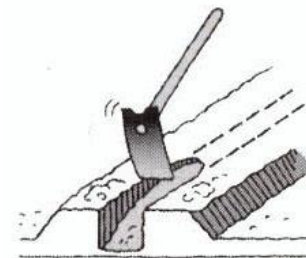
### ①うねを作しましょう！

植付けのための「うね」を作ります。



### ②溝を掘りましょう！

うねの中心に、深さ20~30cm程度の「溝」を掘ります。

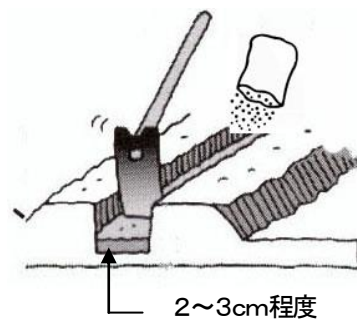


### ③生ごみたい肥を撒きましょう！

溝に、生ごみたい肥を2~3cm程度撒き、底の土とよく混ぜます。

#### 【ポイント】

1~2週間寝かせれば、より土壌が安定します

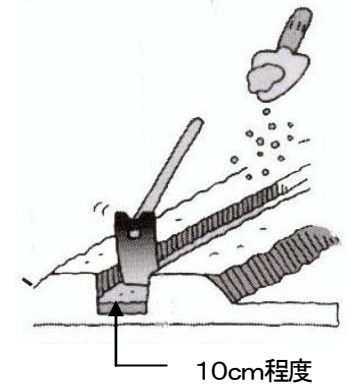


### ④土をかぶせましょう！

「③で混ぜたたい肥」の上に、10cm程度土をかぶせます。

#### 【ポイント】

1~2週間寝かせれば、より土壌が安定します

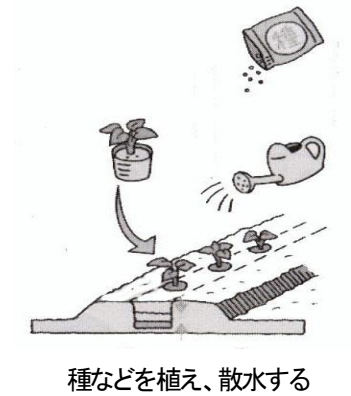


### ⑤植えましょう！

「④でかぶせた土」の上に、種や苗などを植えます。  
※植えるときは、「土」を使用してください。  
最後に、散水をして終了です。

#### 【ポイント】

生ごみたい肥に直接触れないように、植えましょう。



※たい肥効果が強すぎるため、使用しない方がよい植物

- ・観葉植物
- ・サボテン

## 【応用編】

### <プランターで利用>

①土(20)に対し、作ったたい肥(1)の量(約5%)を混ぜ、プランターに入れます。

(10日間程度は、雨や虫除けのためビニールなどで覆っておきます)

②たい肥を植物の脇に少し撒きます。(植物に触れないこと)

③散水し終了です。

### <盆栽で利用>

作ったたい肥を植物に触れないように、植木鉢の土の上3~4箇所撒きます。

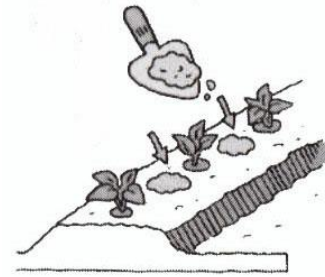
## 《おまけ》

### 【生ごみたい肥を追加する場合】

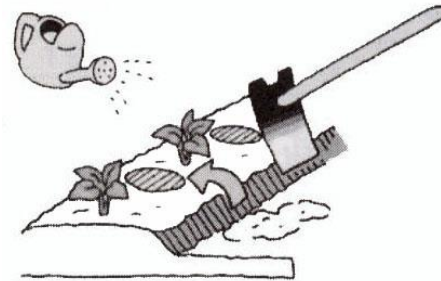
- ①苗と苗（または種と種）の間に、穴を掘り、コップ1杯程度の生ごみたい肥を撒きます。

#### 【ポイント】

1㎡あたりコップ5～6杯分を目安にしてください。



- ②撒いた生ごみたい肥の上に、土をかぶせます。  
最後に、散水し完了です。



### 【「土壌改良材」として利用する場合】

たい肥を土壌に散布した後15～20cm程度耕して下さい。  
土壌の表層から改良され、土が柔らかくなり、理想的な土壌に仕上がりになります。

#### 【ポイント】

苗の植付けや種蒔きなどは、1～2週間待ってから行って下さい。

